

地域の現状

大沼郡三島町は、日本でも有数の豪雪地帯である「奥会津」の玄関口に位置し、町の中央部を只見川が横断し、町域のほとんどが山林の町です。人口はピーク時の約3分の1まで減少すると同時に、高齢人口も高くなっています。

町では、地域資源を活用した地場産業へ発展させることを目的に「生活工芸運動」や都会に住む人々が特別町民になり、理想のふるさとづくりに参加する「ふるさと運動」を展開し、町に活性化を図ってきたところですが、根本的な改善にはなっていません。

地域づくりのあゆみ

平成16年 ・宮下地区地域懇談会を開催。

平成17年 ・宮下地区地域懇談会を開催。

平成18年 ・宮下地区地域懇談会を開催。

平成19年 ・宮下地区地域懇談会を開催。
・秋のてわっさ祭りにおいて、マップの配布や来訪者にアンケート調査を実施。

平成20年 ・宮下地区地域懇談会を開催。
・秋のてわっさ祭りにおいてマップを配布、各種もてなしの取り組みを実施。

事業の効果

■地域資源の活用方策の検討

地域住民が「てわっさ」「まちなみ景観」「周遊」「交流広場」のテーマごとに部会を設け、宮下地区の活性化に向けて地元主体で話し合い、来訪者をもてなす取り組みを企画しています。

作業部会の様子



元気づくりの立役者たち

てわっさ(手技)



三島型住宅



地域の課題・今後の展望

(県担当者)

■地域住民が、まちなかの清掃活動や講師を招いて景観に関する勉強会を行う等の取り組みが行われ始めているものの、これらの取り組みが未だ一部の住民によるものであることから、これらの活動が地域全体のものに至るまで、継続的に行っていくことが重要です。

■本地区においては、平成16年度より地域懇談会を開催しており、平成19年度ぐらいから話し合いばかりでなく実際に自分たちで行動してみようという意識が高まり、本年度もこれに引き続き、地域主体の各種取り組みが芽生えてきていることから、今後は行政主体から地域主体へと移行を図り、県としては、必要に応じてサポートしていくような体制で関わっていくようにしたいと思います。

伝統工芸”てわっさ(手技)”を活用した 体験型交流の推進

会津若-7

三島町宮下地区

三島町

会津若松建設事務所
計画期間: H19~

地域づくりの方針

町全体を博物館に見立て、地域資源それぞれが連携し町全体で展開し、情報発信力や魅力を強め交流を生み、地域の発展に繋げる。国道252号沿いの既存施設「尾瀬街道みしま宿」を情報発信基地に位置づけることや、創作活動をする町民が、自宅の一部を工房など、一般に開放する「桐の里みしま工人郷」を町内の全地域で取り組む。

主な事業内容

地域住民が「てわっさ」「まちなみ景観」「周遊」「交流広場」のテーマごとに部会を設け、宮下地区の活性化に向けて地元主体で話し合い、来訪者をもてなす取り組みを企画しており、これらを支援します。



事業概要図

